

ぱーとなー

2005年 2月
第39号

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています
安全 安心 信頼の医療
私たちは患者様とともに力を合わせて医療をすすめます
無差別平等の医療
私たちは人権を尊重した医療をすすめます
患者負担の少ない医療
私たちは室料差額はいただきません
地域とともに歩む専門職の育成
人権感覚をもつ専門職を養成します

最近の白内障手術

当院で日帰り手術センター（DSセンター）が開始してはやいもので半年が経過しました。当科では白内障手術と、外眼部手術を中心に日帰り手術を施行し、送迎完備も手伝って、開業医の先生方にご好評いただいております。

より安全な手術を目指して当科では努力を続けております。特に白内障手術は術後感染の問題が近年クローズアップされており、我々も特に重点課題にしております。と同時に患者さまの負担軽減、すなわち手術時間の短縮や術後の外見的な問題も十分に目指している課題です。

そこで我々は最近極小切開手術に取り組み良好な成果を挙げております。日本では99年よりこの術式が始まりました。私も01年よりこの術式にとりくみを始めました。ご存知のようにインジェクターの普及により、眼内にIOLを外眼部と接触なく移植が可能となり感染の危険が減りました。インジェクターの進歩とIOLの進化により2mm強の切開創から移植が可能となりました。10時と2時の位置のサイドポートより、スリーブをはずしたハンドピースと還流機能のついたフックで眼内に進入しPEAを行います。その後10時の位置よりIOL移植いたします。切開創が小さいので手術侵襲が少なく、組織侵襲が少なくすみます。また、術後乱視が少ないのも特徴です。この手技は将来の次世代機器であるLaserPhaco AquaLaseへの移行が可能で、欧米ではすでに一般的な術式となりつつあります。また、前房安定、前房の乱流少ないため内皮障害が少ないと考えられています。

ただ、この術式はまだまだ改良段階で、インジェクターの性能上現在では残念ながら2mm強開けないと入らないのです。



欧米では1.5mmで移植可能です。IOLの認可を待たねばなりません。また灌流つきフックの改良が必要であり、私も改良中です。ハンドピースが19ゲージでないと通常のフェイコマシーンでは使えないなど問題があり専用フェイコマシーンの登場が待たれる状況です。硝子体手術をおこなうものであれば双方の手技はなれていますが、そうでない場合はやはり手技の難しさが指摘されるところです。

日々研鑽を重ねることにより我々はこの術式を行い安定した手術成績を得られまして、患者さまにも大変喜んでいただいております。翌日より、外見的にも「手術されてるの?」というぐらいの外見的良好な状態と、良好な視力を得ております。もちろん術後感染のコントロールも良好です。

今後も更なる努力をつづけ、開業医の先生がたにも喜んでいただける眼科、DSセンターを目指してまいりますのでよろしく願いいたします。

眼科部長 香山政紀



////////// 耳原総合病院地域医療室 //////////
////////// 電話 072-241-0324 //////////
////////// Fax 072-241-0208 //////////
////////// Fax 072-241-0670 //////////

お電話で患者さまのご都合に合わせて予約いただけます。

折り返しFAXにて予約票をお送りします。
事前にカルテを準備してお待ちします。

カルテ作成に必要な情報をFAXして下さい。
予約当日、患者さまが受診の際
保険証 診療情報提供書 上記予約票をご持参下さい。